2015年度評議員会報告

期　　日：2015年9月18日（金）17:30〜20:30
場　　所：兵庫県立大学神戸商科キャンパス教育棟I・211教室
出席評議員：上田恵介（会長），植田睦之，江崎保男（大会会長），尾崎清明，亀田佳代子，川上和人（企画），高木昌興（英文誌），永田尚志，西海　功（図書），濱尾章二，早矢仕有子（副会長），藤岡正博，三上修
欠席評議員：中村雅彦・綿貫　豊
各種委員会代表等：日野輝明（和文誌），大迫義人（保護），亀谷辰朗（記録），山崎剛史（分類），和田　岳（広報），浅井芝樹（基金運営）東條一史（選挙管理委員長）
事　務　局：山口典之（事務局長），笠原里恵（会計幹事），三上かつら（庶務幹事），嶋田哲郎（次期庶務幹事）
監　　事：川路則友

報告・審議事項

1）事務局関係報告
　a）会員動向
　　2014年12月31日時点の会員動向の報告があった．会員数は1,186名で，前年より56名減である．
2）選挙結果報告（報告内容については選挙結果報告を参照）
3）会計報告
　a）2014年度決算報告（和文誌64巻2号に掲載）
　b）2015年度予算執行状況の報告
4）各種委員会報告（報告内容については委員会報告を参照）
5）審議事項
　a）次期各種委員会体制に関する審議
　　英文誌編集委員会：北村　亘・関　伸一・中村雅彦・西海　功・早矢仕有子・三上　修が退任し，安藤温子・上野裕介・山崎剛史・山本誉士・依田　憲が就任，和文誌編集委員会：嶋田哲郎・日野輝明が退任し，田尻浩伸・森本　元が就任，広報委員会：東條一史・時田賢一が退任し，上沖正欣が就任，基金運営委員会：藤原宏子・綿貫　豊が退任し，亀田佳代子・相馬雅代・濱尾章二が就任，図書管理委員：西海　功から濱尾章二へ交代，自然史学会連合担当：西海　功から濱尾章二へ交代（敬称略）．
　b）日本鳥学会誌の投稿規程改定について（和文誌編集委員会）
　　オーサーシップに関する事項を投稿規定に盛り込むことについて審議された．投稿規程の第2条に「すべての共著者から，内容並びに投稿への同意が明示的に得られている必要がある．」の一文の追加，およびウェブ上で論文を投稿する際にボタンをクリックするシステムの追加，という2案について承認された．
　c）和文誌閲覧制限について（和文誌編集委員会）
　　電子ジャーナルの現在の閲覧制限2年間を1年に縮めることについて，提案がなされ，承認された．
　d）2016年度予算案の審議
　　予算案が承認された．
　e）2017年度大会開催地についての審議
　　2017年度大会開催地について，藤岡正博氏を大会会長として茨城県つくば市で開催することが承認された．
　f）日本鳥学会誌のEditor's Choiceの開始について（和文誌編集委員会）
　　日本鳥学会の和文誌でEditor's Choiceを開始し，編集者が選定した数編（未定）の論文を即座にJ-Stageにて全公開することの可否について諮られた．編集委員会が，1号に1篇の注目論文を選び，閲覧制限なし（オープンアクセス）にする，という案が諮られ，承認された．
　g）若手対象の新賞の設置に関する検討結果について（新賞設置検討部会）
　　新賞設置検討部会（川上・藤岡・綿貫）より，川上氏から新賞設置に関して，説明がなされた．若手に対する奨励賞と，ポスター賞の2つを設置するという検討結果について，可否が諮られた．賞を設置することについては承認されたが，詳細検討は継続審議となった．
　h）基金運用計画の確認（基金運営委員会）
　　基金運営委員長代理からの説明の後，基金運用計画について確認を行った．

i） 大会規定・大会運営指針の策定および大会会計の取り扱いについて（事務局長）

年次大会における学会事務局と大会実行委員会の役割分担の明確化および大会開催に伴う経費の取り扱いを定めることを目的とし，大会規定（案），大会運営指針（案）を策定することの賛否およびその内容について，提案がなされたが，継続審議事項となった．

6） 次期体制

新会長挨拶の後，次期事務局体制が新会長から提案され，承認された．次に副会長の互選が行われた．副会長に早矢仕有子氏が推薦され，承認された．

＜次期事務局体制＞

会長	西海　功
副会長	早矢仕有子
事務局長	山口典之
庶務幹事	嶋田哲郎
会計幹事	川上和人
監事	林　暁夫，山口恭弘

2015 年度総会議事報告

2015 年 9 月 20 日（日）13:00～15:00（兵庫県立大学神戸商科キャンパス　三木記念講堂）：開会宣言，会長挨拶，大会会長挨拶，総会成立確認の後，江崎保男氏を議長に選出し，以下の報告が行われた．

1） 事務局報告（評議員会報告を参照）
2） 評議員会報告（評議員会報告を参照）
3） 各種委員会報告（各種委員会報告を参照）
4） 選挙結果報告（選挙結果報告を参照）

以下の議事が審議され，承認された．

1） 日本鳥学会誌投稿規定改定
2） 2014 年度会計決算報告／監査報告
3） 2016 年度予算案

その他として，研究倫理，法人化，近隣国鳥学会との交流促進に関する意見が会員から寄せられた．

2016 年度大会開催予定地（北海道大学，札幌）について，早矢仕有子大会会長より紹介，挨拶がなされた．

閉会宣言にて終了．

英文誌編集委員会報告

1） 発行状況

第 14 巻 1 号（特集号論文 5 編・短報 3 編）を 1 月，2 号（原著論文 4 編・短報 2 編）を 7 月に発行した．

2） 編集状況

2015 年 1 月 –12 月（12/21 現在）
総投稿数　32（前年比 0.78 倍）
受理数　12　採択率 66.7%［受理数／（総投稿数－審査中数－取り下げ数）］
審査中数　13
取り下げ　1
却下数　6（うち編集委員会却下数　2）

（英文誌編集委員長）

和文誌編集委員会報告

1） 日本鳥学会誌発行状況

2015 年第 64 巻は予定通り，1 号は 4 月に，2 号は 10 月に発行された．1 号は，特集 6 編，短報 1 編，観察記録 3 編を掲載し，2 号は，特集 4 編，原著 5 編，短報 3 編，観察記録 4 編を掲載した．

2） 日本鳥学会誌編集状況

2015 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までに受け付けた投稿状況および前年からの繰り越し分を含めた原稿の編集状況は以下のとおりである．しばらく掲載がなかったモノグラフについては，現在 2 名の方に執筆を快諾していただき，第 65 巻以降に掲載予定である．

	モノグラフ	原著	短報	観察記録	意見	合計
前年度繰り越し		13	2	5	1	21
投稿	1	6	5	13		25
受付	1	5	4	10		20
受理	1	10	3	7	1	22
編集中		6	3	8		17
不受理		2				2

3） 投稿規定の改正

投稿規定の改正を行い，「第 2 条　投稿資格」において，共著者の要件として「すべての共著者から，内容並びに投稿への同意が明示的に得られている必要がある」の条文を追加した．この変更に合わせて，投稿・編集システムにおいて，共著者全員から投稿への同意が得られていることを示す同意書を送付することを原稿受付の条件とすることに変更した．また「投稿の手引き」において，「著者の倫理的責任」の項目を新たに設けて第 65

巻1号より掲載することになった．

4） J-stage 登載論文ダウンロード制限期間の短縮

J-stage 登載論文ダウンロード制限期間をこれまでで発行後2年間に設定してきた．論文は非会員も含めてできるだけ多くの人に読まれてこそ，その価値が発揮されること，和文誌掲載論文が，他雑誌で引用される頻度が増えていくことで，知名度の向上と会員の増加にもつながることが期待されることから，第65巻1号より，ダウンロード制限期間を1年間に短縮することになった．

5） EDITOR'S CHOICE による注目論文の選定

第65巻1号より，掲載論文の中から1号につき原則1編の注目論文を編集委員会の協議に基づいて選出していくことになった（あくまでも原則のため，号によっては2編選出される場合もあれば，選出なしの場合もあり）．選出論文については，鳥学通信で紹介するほか，特典として，J-stage でのダウンロード制限期間なしに公開する．注目論文に選出されることは，論文を投稿する者にとって励みとなると考えられ，質のより高い論文が増えていくことが期待される．

6） J-stage 搭載電子版のアクセス

J-stage における過去1年間（2014年7月～2015年6月）の和文誌掲載論文（2006年第55巻～2015年第64巻）に対する全文 PDF アクセス数は15,492件であり，昨年よりも1.5倍に増加した．国別内訳では，昨年と同様に，国内（48%）とアメリカ（44%）でほとんどを占めていた．掲載数に比してアクセス数が多かったのは，原稿の種類別は，総説（1.6倍）が，対象種別では，キジ目（2.5倍）とタカ目（1.5倍）であった．この集計結果については，鳥学通信で紹介していくほか，アクセス上位ベスト10の論文についても和文誌 HP で公表していくことになった．

7） 投稿の手引きの改正

投稿の手引きの改正を行い，観察記録の採択基準については，日本鳥類目録の最新版の記述に書き換えを迫る内容であることを原則とすることとし，分布拡大の対象地について明記した．

（和文誌編集委員長）

鳥類保護委員会報告

1） 総会決議その後の経緯

a） 沖縄島在駐米軍北部訓練場内ヘリパッド移設計画の見直しの要望書（1999年度）

東村高江区では，2014年までに2か所のヘリパッドが完成し，すでに米軍に共用されている．新たなヘリパッド建設の動きはないが，今後も情報収集に努める．

b） 愛知県渥美半島での自衛隊ヘリコプター離着陸訓練場計画の再検討を求める要望書（2004年度）

防衛省は，渥美半島のヘリコプター訓練予定地が猛禽類によって周年重要な場所であることを認識したため計画を取り止めている．さらに，該当の土地は2014年中に防衛省から財務省に移管された．よって，今後，防衛省が該当土地を使用することはないと考えられ，本委員会としてのフォローアップは終了する．

c） 上関原子力発電所建設計画に係る希少鳥類保護に関する要望書（2008年度）

2015年の町長選挙で，原発反対派は候補を出さなかったので原発推進派の人が町長になっている．本委員会としては動向を引き続き注目してゆく．

2） 風力発電所問題への対応

秋田県大潟村干拓地に予定されている大規模大型風車群の建設は，現在のところ進んでいないが，建設により鳥類の保全において問題がでるようであれば，鳥学会からの要望を検討する．

また，現在，風力発電所建設関連の案件は非常に多く，本委員会が個別に対応することが困難な状況である．かつ建設計画は，環境省のアセス部門と野生動物部門が個別に進めており詳細がわかりにくい．本委員会としては，学会員に対して風力発電所とその計画に関するローカルな事案や鳥類への影響などの情報収集を継続する．

3） 環境省レッドリスト第5次改訂

第4次改訂のウズラのランクアップは，本委員会からの意見が反映された結果であることより，第5次改定においても，本委員会として内容を精査し，必要な場合は変更の要望を行なう．特に，オオミズナギドリの繁殖コロニーにおいて，ノネコによる捕食の影響が深刻化しており，環境省のレッドリスト追加について関係研究者と連携して検討する．

4） 鳥類の外来種対策

2015年3月に，外来種被害防止行動計画と生態系被害防止外来種リストが策定されたことより，本委員会では学会会員にそのことを周知し，被害防止のための関係機関との連携を促進してゆく．特に，懸案種であるコブハクチョウとカナダガンについては，慎重な対応が求められる（ただし，

2015 年 12 月 8 日，カナダガンの国内根絶が終了した）．

5）　国内希少野生動植物種の追加指定

環境省は，2020 年までに種の保存法における国内希少野生動植物種の指定種を約 300 種追加する方向で動いている．増やすにあたっては，合理的な指定の基準と優先が必要であり，かつ増加した分，各種の保護増殖関係の予算が削減されることから，本委員会としては，指定種の希少性と有効性について科学的に評価し対応してゆく．

6）　鳥類保護委員会の今後の方針

従来の希少鳥類保護のための決議と要望書提出の対応だけではなく，今後は，生物多様性保全の観点から外来種問題や鳥獣管理対策も含めて積極的に検討していく．

7）　委員長・副委員長の交代

2016 年から，委員長は佐藤重穂氏，副委員長は白木彩子氏が務める．

（鳥類保護委員長）

日本産鳥類記録委員会報告

1）　目録第 7 版の記述事項に関する質問への対応

目録第 7 版の記述のうち，各地の生息記録に関する一般，もしくは他委員会からの質問に答えるための文献資料等の確認作業を行った．

2）　目録第 7 版の正誤表の作成

分類委員会とともに目録第 7 版の記載上の誤りについて確認し，正誤表（2015 年 1 月 9 日版）の作成を行った．

3）　目録の記載変更根拠資料の整理

目録 6 版から 7 版への記載変更の根拠文献の確認を行い，資料として整理する作業を協力者を募って実行中である．

4）　日本産鳥類の記録文献収集および整理

稀種の記録，各地鳥類相，標本目録等の記述が掲載されている，日本産鳥類の記録に関する文献の収集と整理を行った．これらは今まで同様，ある程度まとまりがついたところで，随時和文誌上に公表していく予定である．

5）　日本産鳥類の記録収集と整理

未だ文献化されていない日本産鳥類の記録（インターネット上に公表された記録，個人的伝聞による記録など）についての情報の収集と整理を行った．

6）　日本産鳥類の記録に関する文献作成への協力

当委員会の委員を通して要請があった場合に限って，目録，報告書，論文の作成時に過去の記録などが明らかでない場合に，その探索と提供を行った．

（日本産鳥類記録委員長）

鳥類分類委員会報告

鳥類分類委員会では，日本鳥類目録第 7 版の分類体系を最新のものへとアップデートすることを目指し，近年進展の著しい鳥類分類学の成果について情報の収集とその整理を進めている．2015 年には，鳥学会大会にて，高次分類体系の変遷に関するこれまでの成果をポスター発表した．また，目録第 7 版の編集のために設立され，現在はすでに解散されている旧目録編集委員会の委員とともに，一部の科に所属する種・亜種について，分類体系の変遷を解説する報文の準備を進めた．

（鳥類分類委員長）

企画委員会報告

1）　鳥の学校

日本鳥学会大会開催に合わせ，2015 年 9 月 18 日（金）に鳥の学校テーマ別講習会「鳥類調査のための獣医学講習」（講師：高木（林）英子，葉山久世）を兵庫県立大学神戸商科キャンパスにおいて開催した（本号に報告記事掲載）．

2016 年度は，大会にあわせて GIS の実践的利用に関する講習の開催を企画中である．

2）　男女共同参画関連

日本鳥学会 2015 年度大会にて，男女共同参画に関するポスター発表「ヒト（鳥研究者）における婚姻形態と子育て―忘れられがちなもうひとつの人生―」（堀江明香ら）を行った．

第 13 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムが 2015 年 10 月 17 日（土）に千葉大学西千葉キャンパスにて開催され，川上和人委員長が日本鳥学会を代表して参加した（本号に報告記事掲載）．また，上記と同タイトルでのポスター発表を行った．

3）　調査ボランティア紹介の開始

鳥学に興味のある人に対して野外調査の機会を提供することを目的として，鳥学会ウェブサイトにて鳥類の野外調査ボランティア先の紹介を 5 月から開始した．初回は 7 つの受け入れ団体のボランティア活動の紹介を行った．今後は応募状況の様子を見ながら，募集・周知方法を検討していく予定である．

4）　ポスター賞設置に向けての準備

若手研究者の研究発表を奨励するため鳥学会としてポスター賞を設置することが認められ，その

実務を企画委員会が担当することとなった．これを受け，ポスター賞選考のための体制と手法の検討を行った．

（企画委員長）

広報委員会報告

1）　鳥学会ホームページの利用状況

2014 年 8 月 1 日から 2015 年 8 月 18 日まで（ただし，鳥学会ウェブサイトのリニューアルに伴い 4 月 19 日から 5 月 11 日の 23 日間はアクセス解析ができなかった）

日本語トップページ　アクセス数：27,421（昨年度 2013 年 8 月 1 日から 2014 年 8 月 18 日まで 37,216）

英語トップページ　アクセス数：966（昨年度 2013 年 8 月 1 日から 2014 年 8 月 18 日まで 767）

2）　活動履歴

a）　43 号（2014 年 7 月 26 日）の発行以降，鳥学通信の発行は停滞していたが，集まった原稿から随時サイトにアップする方針に切り換え，2015 年 10 月以降，発行を再開している．

b）　ホームページへのリンクや鳥学会関連情報掲載の依頼への対応

鳥学会関連に関する情報（鳥学会が関連する各種企画・行事の掲示，会員からの要望など）を適宜ウェブ上に掲載．

3）　和文ページのリニューアル

2015 年 5 月に日本鳥学会ウェブサイトの和文ページ部分のデザインを全面的にリニューアルした．今後，英文ページのリニューアルを進めていく．

4）　広報委員会委員の変更

広報委員長を，和田　岳から，三上　修に変更．

退任する委員：東條一史，時田賢一

新任の委員：上沖正欣，森　さやか

（広報委員長）

基金運営委員会報告

1）　2015 年度黒田賞に江田真毅氏を選出・推薦し，決定された．2015 年度大会において授賞式および講演を行った．内田奨学賞と津戸シンポジウム助成への応募はなかった．

2）　2016 年度黒田賞・内田奨学賞を 2016 年 3 月 31 日締め切りで募集した．

3）　特別会計の 2014 年決算，2015 年会計経過報告，2016 年予算について承認した．

4）　委員の交代があった．規定により，2015 年で綿貫，藤原が退任した．2016 年からの新委員は，濱尾章二（委員長），相馬雅代（黒田賞担当），亀田佳代子である．

5）　2014 年度内田賞選考報告において不正確な点があったことを受け，選考基準を明確化する議論を行う予定であったが，選考方法の大きな変更も予定されているため（後述），議論は先送りとした．

6）　新賞設置検討部会から提案された新しい選考方法（黒田賞，内田奨学賞，若手を対象とした新賞を一つの選考委員会で一括審議）について議論し，この提案にしたがって今後詳細を検討することとした．

7）　2016–2019 年の基金運用計画について確認した．

8）　2015 年度黒田賞選考の際に生じた問題点について報告し，選考手順について議論した．前述の新しい選考方法とも関係するので継続審議とした．

（基金運営委員長代理）